

本学卒業生の勤務状況や現在の心境等を把握し、卒業生の支援をするとともに、大学での学びが就職後どのように生かされているか、面談とアンケートを通して検証し、大学の学びを可視化することを目的に、卒業生と所属長（園長等）を対象に、4 つの視点（①専門知識、②技能、③考え方、④人間関係）で調査し、経年変化についても検討した（表 1 及び図 1）。

卒業生のうち幼児教育・保育コース所属の者の「専門知識」「考え方」の自己評価は、所属長の評価と同じ割合、「技能」については、高い傾向であった。これらは学科会議での情報共有・きめ細やかな指導、FD 活動などを通じた教育改善が表れた結果と考えられる。また、施設長からの詳細な質問項目及び自由記述を概観すると、一昨年度に比べて、「人間関係能力」「文章作成力」の評価が飛躍的に向上していた。インクルーシブ教育士関係の授業の効果がでてきているものと考察している。

一方で、「人間関係」の評価が他の項目の評価に比べて、低い傾向にあった。対象となる卒業生は、新型コロナウイルス感染症拡大初期に在学しており、同級生、他学年、教職員、子どもと直接関わる経験が制限されていたことが影響している可能性が考えられた。

今後は、リカレント教育を通して卒業生の支援を行うと同時に、学科内で情報を共有し、本学の教育に反映させ、指導の改善にも生かしていく。

表 1 2024 年度卒業生訪問結果概要

（2025.8.20 学科会議報告）

就職先	配布数 (人)	回収数 (人)	回収率 (%)	大学での学びが現在生かされているか (%)			
				専門知識	技能	考え方	人間関係
卒業生	77	23	29.9	90.9	95.5	81.8	59.1
所属長 (園長等)	61	40	65.6	90.9	90.5	81.8	80.0

\* 対象は、2024 年 3 月卒業生（8 期生）であり、調査期間は 2024 年 11 月～2025 年 1 月であった。

\* 各設問は、「①非常に活かされている」「②どちらかと言えば活かされている」「③どちらでもない」「④どちらかと言えばそう活かされていない」「⑤あまり活かされていない」の 5 件法で回答してもらった。表には、そのうち①と②の割合の合計を示している。

\* 表中「大学での学びが現在生かされているか (%)」については、本学卒業生のうち、「幼児教育・保育コース」所属の学生のデータである。

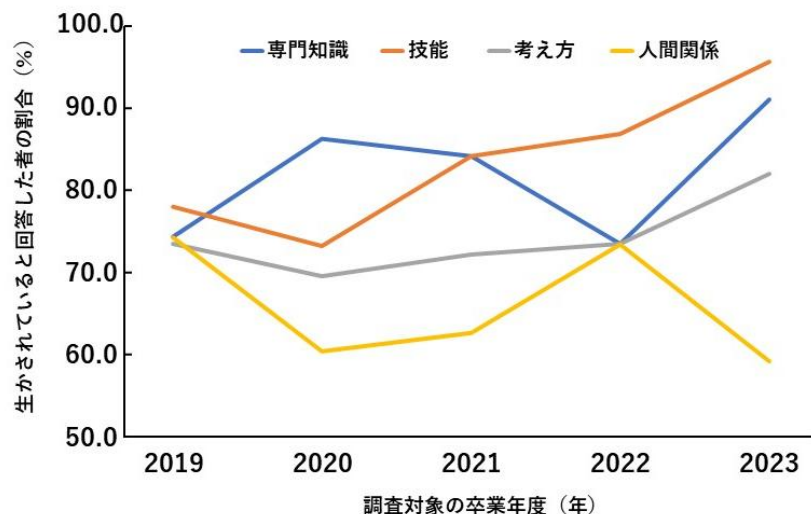


図 1 「大学での学びが就職後どのように生かされているか」について、2019 年度から 2023 年度の卒業生の経年変化（保育職）